

## アジア新展開：消費の日本化への対応戦略

－サービスに日本の文化を埋め込む－

一般財団法人国際貿易投資研究所 客員研究員 日本大学 生物資源科学部教授 朽木昭文氏

### 「中所得国のわな」について

2025年の1人当たりGDPのJAICAの予測に基づいて進める。2000ドルから15000ドルまでが中所得国で、高い方からマレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンまでが上位中所得国で、ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマーが下位中所得国と位置づけられている。70350ドルのシンガポール、57594ドルのブルネイは別格で高所得国である。

マレーシアは15056ドルでかろうじて15000ドル超で、本当に「わな」から出られるかどうかギリギリのところだ。それ以下、9734ドルのタイ、6714ドルのインドネシア、4493ドルのフィリピンは、これまでのままでは15000ドルを突破できないという予測になっている。実は、ここに日本企業の出番があるということを確認してほしい。

まさに今、日本の目の前に「わな」にはまって上昇できないでいる国がいて、そこに潜在的な欲求を膨らませている「お客」がいる。日本にチャンスが来ている。いかにして、そのアジアの中所得のお客に満足を与えるバリューチェーンをつくることができるかどうか、日本企業が生きていく上でのカギである。

極東の日本は場所が悪いというが、アメリカやヨーロッパと比べれば成長地域と隣り合わせだ。アジアとどうやって一体となって成長していくかを考えないと日本は取り残される。逆に、アジアを面とらえれば日本は楽に生きられる。アジアとのバリューチェーン・マネジメントを構築することによって日本は完全にアジア地域とつながることができる。

### アジアネットワークと沖縄の位置

沖縄はアジアネットワークの拠点となり得る。たとえば、今、福井の「のどぐろ」が朝取れると明日には香港で食べられる。その搬送のハブが沖縄である。沖縄は観光の基地、人の基地、物流の基地として、4時間圏内でアジアのほとんどをカバーできる。沖縄を日本の成長戦略のかなめとしてどう活かすか。

たとえば、日本の全国の特産物を集めてきて、そこにアジアのバイヤーたちを集めて交易会を開催する。アジアからの観光客をあつめて体験と情報の発信基地とする。そうやって、たとえば中国の広東省だけをおさえても1億人の市場が手に入る。今はまだ、ヤミの運び屋によって香港から向かいの深圳までしかいっていないものが、きちんとしてネットワークをつくれば首都の広州まで届く。しかも、これからのロジスティックスは単なる物流ではなくて、消費者へのバリューチェーンを含めたネットワークだ。

この産業連関をつくる上で、特に大事なことは海外との提携も入れてのアウトソース、アライアンスだ。ぜひ、「自前主義」を破ってほしい。

### 農・食・観光のクラスターの形成

今や、中国も、シンガポールも、ベトナムも、みな高齢化して、100 万円で人間ドックをやっても大量にくる。それだけ「健康」ということに対して提供されるものやサービスの価値が高まっている。

今後、アジアにおいて日本企業の柱になるクラスターは「農・食・観光」だと考えている。日本とアジアとの関係において、もっとも適したモデルが「農を使った観光」で、そこに上手に日本の文化を埋め込むということだ。

### **文化の要因を洗いなおす**

たとえば、沖縄にはライブハウスが 500 店以上もある。一方、ウコンという健康食品がある。というように、必要なものは全部そろっている。言いたいことは、それを農・食・観光のクラスターとして産業連関するということだ。単に黒砂糖と泡盛を売っても売れないけれども、レストランに泡盛をもって行って、歌や踊りを聴きながら、豚などの沖縄料理をおいしく頂きながら、みんなと一緒に楽しく過ごす。

そういう方向で日本の文化をアジアに入れていくということだ。日本の各地域の要因を洗い直してみたものから抜粋して資料に示した。こうしてみると、基礎的な要因となるものは日本全国に豊にそろっている。われわれがビジネスに入れ込んでいくべき文化の要因は日本にいっぱいある。また、世界に対しては、アジアにもいっぱいある。それをアジアと一緒にやって出していくことを考えてほしい。デザイナーの三宅一生は日本の「モンペ」を西洋の人が着るようにフィルターをかけて変えたら「世界のイッセイ・ミヤケ」になったというように、伝統も崩しながら伝えていくところが肝心なところで、それぞれの専門家を上手に使い込んでクラスター化するのが皆さんの役割だ。

### **ベトナムーダラットの未来像を例に**

ベトナムのランドン省のダラットというフランス時代につくられた街がある。

ホーチミンから 200 キロのところにあってシンガポールと直行便が昨年通った。宮殿が 4 つあってその 1 つにシェラトンが入っていて 1 万円で泊まれる。王様になった気分を味わえる。ワインやコーヒーや花が生産されていて、やがて世界遺産にと言われている。ここに、どのようなモデルが作れるか。

### **日本のモデル展開ー阪急モデル、小田急モデル**

阪急の創業者の小林一三氏は、鉄道を引く時、乗客をつくるために住宅開発を行う。住宅を買えるようにするためにローンをつけ、それに温泉をつけ、百貨店、住宅、学園、映画、劇場、保養地・・・全体をセットにした。これを関東に移植して小田急モデルができた。そうやって最も典型として出来たのが大阪の環状線である。これがベトナムでできないものか。

中核をつくって、それを外周に広げていく。その時に鉄道インフラ、施設インフラを使ってクラスター化を計る。そうすると中心部との所得格差が縮まって行ってさらに発展につながっていくことができる。